

歴史は未来の羅針盤

温故知新

これまで刊行しました、『近江日野の歴史』
第一巻「自然・古代編」、第二巻「中世編」、第
五巻「文化財編」、第六巻「民俗編」、第八巻
「史料編」は、教育委員会や各公民館などに
いて、一冊四、〇〇〇円で好評販売中です。ぜ
ひともお買い求めください。

出版文化の開花と日野

蔵書の分野は、儒書・仏書・
往来物などの教育関係書のほか、
浮世絵師の挿絵が付けられた小説
など多岐にわたっています。
こうした蔵書のなかで、文化元
年（一八〇四）年に刊行された伝
記『孝子善次行状』は、日野商人
門坂善太郎が執筆、谷田輔長が挿
絵を描いており、日野在住者が作
者として出版文化を支えていたこ
とがわかる興味深い作品です。内
容は、大窪上鍛冶町の善次の奉公
人としての働きぶり、親孝行ぶ
りを称えたもので、江戸・京都・
大坂・肥前の書肆（出版社）から
出版され全国的に流通していたこ
とが知られています。

平成二十二年十一月に刊行いた
しました『近江日野の歴史』の第
五回配本・第八巻「史料編」では、
日野町内に残された古文書や日野
にかかわる記録類を紹介していま
す。今月は「近世編」の概要をご
紹介します。

近世の日野と古文書

近世（江戸時代）は、それまで
の中世に比べて、紙に筆で文字が
書かれた記録類が飛躍的に増大し
た時代でした。それは、織田信長・
豊臣秀吉・徳川家康らによる天下
統一を経て戦乱の世に終止符がう
たれ、「文書」を基本とした新た
な支配システムがつくられたから
です。

新しいシステムのもとでは、武
士が百姓町人を管理するための法
令はもちろん、毎年の年貢納入通
知や、土木工事への領民の動員、
辻に掲示された高札、旅行に必要
な往来手形や、婚姻に際して発行

される寺請証文など、あらゆる手
続きが文書を通じて行われるよう
になりました。

こうした文書による支配システ
ムを実質的に担っていたのが現在
の大字にあたる「近世村（町）」
です。村や町は、江戸幕府によつ
て支配のための末端組織として位
置づけられ、多くの行政実務を担
わされました。その業務の範囲は、
現代社会で例えて言うなら、市町
村役場・警察署・保健所・税務署・
家庭裁判所の役割をあわせ持つも
のであったと言われています。

その結果、日野町内の各大字や
旧庄屋宅には、江戸時代に作成さ
れたばう大な数の行政文書が残さ
れており、当時の庶民の暮らしぶ
りをつぶさにかがいが知ることが
できます。近世編では、徳川幕府
の治世下にあたる江戸時代の史料
を厳選し、「日野の領主たち」「村
と町の諸相」「産業と交通」「文化
の成熟と社会の変容」の4つの章
にわけて収録しました。

文書行政の浸透を受けて、江戸
時代の中期になると、庶民生活の
隅々にまで文字の使用が普及する
ようになりました。町内の各地に
は、「往来物」と呼ばれる読み書
き教育に用いられた書物が多数残
されており、文字の学びが定着し
ていた様子がわかります。幕末期
の日本は世界屈指の高い識字率を
誇る社会へと成長しました。
こうした文字使用の普及を受け
て、江戸時代は出版文化が花開い
た「書物の時代」となりました。
日本の各地には多くの蔵書を持ち、
近隣の人々に蔵書を貸し出して知
識や情報を広める役割を果たして
いた家があったことが知られてい
ます。



▲『孝子善次行状』（部分）